

2025年度 幼児造形事業 成果報告

2026年3月

かほく市幼児造形事業アドバイザー

森田 ゆかり

I はじめに

新保育所保育指針では、幼児教育・保育の展開において、子どもが環境とかかわりながら多様な経験を重ねていくことの重要性が示されている。本事業でいう「造形」とは、一般にイメージされる作品づくりだけを指すものではない。形や色、素材に触れ、それらと関わりながら感じ、気づき、試していく過程そのものも含んでいる。

かほく市では、そのような造形活動を基幹事業として位置付け、市内の公立・私立こども園、保育園において0歳児から継続して取り組んできた。また、造形活動を通して見えてくる子どもの姿に着目し、保育者同士が学び合う機会を重ねてきた。

令和7年度は、「公開保育および検討会」、「実技研修」、「遊び・表現・絵を読む会」などを引き続き実施し、子どもの姿を手がかりに保育を捉え直す学びを積み重ねた。本報告では、その主な取り組みと、そこから得られた学びについてまとめる。

II おもな事業内容

主な事業内容は以下のとおりである。

実施日時		会場	内容（対象）		参加数
5/28	13:15 ～14:45	議会庁舎第1会議室	研修会① (5歳児保育者)	遊び・表現・絵を読む会(5歳児)	11
6/4	13:15 ～14:45	宇ノ気生涯学習センター音楽室	研修会② (3,4,5歳児保育者)	実技研修1-1・造形遊び(教材研究)「テープ&接着方法+クラフト紙」	25
6/11	13:15 ～14:45	宇ノ気生涯学習センター音楽室	研修会③ (3,4,5歳児保育者)	実技研修1-2・造形遊び(教材研究)「テープ&接着方法+クラフト紙」	27
7/2	9:30 ～11:00	市立高松こども園	5歳児公開保育 (3,4,5歳児保育者)	「好きな遊びを楽しもう！」	20

7/2	13:15 ～14:45	市立高松こ ども園	5歳児公開保育検 討会 (3,4,5歳児保育 者)	午前の公開保育の事例検討	23
7/23	13:15 ～14:45	市役所 304 会議室	研修会④ (4歳児保育者)	遊び・表現・絵を読む会(4 歳児)	10
8/27	13:15 ～14:45	市役所 301,302 会 議室	研修会⑤ (0,1,2歳児保育 者)	実技研修 2-1・造形遊び(教 材研究)「のり&テープ」	35
9/3	13:15 ～14:45	市役所 301 会議室	研修会⑥ (3歳児保育者)	遊び・表現・絵を読む会(3 歳児)	13
9/10	13:15 ～14:45	市役所 301,302 会 議室	研修会⑦ (0,1,2歳児保育 者)	実技研修 2-2・造形遊び(教 材研究)「のり&テープ」	37
10/22	9:30 11:00～	市立しらゆ りこども園	0歳児公開保育 (0,1,2歳児保育 者・ビデオを視 聴)	「いろいろな素材に触れる」	4
	13:15 ～14:45	市役所 301 会議室	研修会⑧ (2歳児保育者)	遊び・表現・絵を読む会(2 歳児)	14
11/12	13:15 ～14:45	市役所 301 会議室	0歳児公開保育検 討会 (0,1,2歳児保育 者)	10/22の公開保育の事例検 討	27
11/19	13:15 ～14:45	市役所 301 会議室	研修会⑨ (1歳児保育者)	遊び・表現を読む会(1歳 児)	17
1/21	13:15 ～14:45	市役所 304 会議室	研修会⑩ (0歳児保育者)	遊び・表現を読む会(0歳 児)	18
2/7	13:45 ～16:30	石川県西田 幾多郎記念 哲学館	かほく市こども園 職員会研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演 國學院大學 人間 開発学部 子ども支援学 科 教授 鈴木 みゆき 氏 「子どもの生活リズムと 健康について」 ・ 県保育実践研究発表報告 研究委員会報告 他 	154

実施日時	会場	内容	
通年	公立こども 園全園	展示	玄関付近にアートコーナーを設け、 現在進行形の造形活動およびドキュ メンテーションを随時展示(※)

通年	ホームページ	情報発信	幼児造形事業内容について、 ・子どもの姿を中心とした園での取り組み ・保育者の学びを発信
	イオンモールかほく	展示	(※)の展示後、各園月替わりでイオンモールかほくに展示(3, 4歳児) 7月 大海こども園 8月 みずべこども園 9月 金津こども園 10月 はまなすこども園 11月 高松こども園 12月 新化こども園 1月 ひまわりこども園 2月 しらゆりこども園

Ⅲ 公開保育および検討会

公開保育では実際の保育の場で見られる子どもの姿を共有し、検討会ではその姿をもとに対話を行いながら保育を振り返った。実践の公開と対話による学びを通して、園を越えた保育者同士の学び合いを進めた。

1 実施の趣旨

- ・市内各園の保育者が公開保育および検討会を通して子どもの姿を共有し、年齢や発達に応じた造形活動や環境構成の在り方について学び合うことを目的として実施した。
- ・実践の公開や映像による共有、対話を通じた振り返りを行い、各園における保育の質の向上につなげる機会とした。

2 公開保育および検討会の概要

(1) 5歳児 公開保育および検討会 (高松こども園)

保育室には複数の遊びのコーナーが設けられ、子どもが自ら遊びを選び、継続して取り組める環境が整えられていた。

造形活動では、バブルアート(泡遊び)を通して素材の特性を試し、工夫し、発見する姿が見られた。子ども同士が互いの表現に影響を受けながら遊びを展開していく様子も印象的であった。

保育者は必要以上に介入するのではなく、子どもの発見やつぶやきに耳を傾け、問いかけを通して遊びを深めていた。

参加者からは

- ・子どもが好きな遊びを選び、思う存分取り組める環境が整っていた
 - ・遊びをさらに深める声かけが参考になった
 - ・一人一人の「楽しい」が尊重されていると感じた
- といった意見が寄せられた。(公開保育アンケート)

主な学び

- ・主体的な遊びを支える環境構成の共有
- ・子どもの表現を読み取り言葉を引き出す援助の再確認
- ・教材研究を子どもと共に行う視点の広がり

検討会では、子どもの表現の読み取りや問いかけの在り方について対話が行われ、造形活動は一つの答えを求めるものではなく、子どもと共に探究していく姿勢が重要であることが共有された。

(2) 0歳児 公開保育および検討会（しらゆりこども園）

公開保育の様子をビデオ撮影し、各園で視聴した。

段ボールや手作り玩具など素材を生かした環境構成が工夫され、固定玩具と持ち運べる玩具の使い分けや、子どもが安心して過ごせる居場所づくりなど、日々の積み重ねが感じられる実践であった。

参加者からは

- ・環境設定の工夫が具体的で参考になった
 - ・検討会で手作り玩具の実物に触れながら学ぶことができた
 - ・少人数での対話により理解が深まった
- との感想が寄せられた。

主な学び

- ・発達に応じた環境構成の工夫の共有
- ・手作り教材に関する実践交流
- ・少人数対話による学びの深化

3 公開保育を通して

- ・5歳児では「遊びを深める視点」、0歳児では「環境を整える視点」から学びが深まった。
- ・いずれにおいても、子どもの主体性を尊重し、その姿を丁寧に読み取ることが共通の基盤となっている。
- ・実践の共有と対話による振り返りを重ねることで、園を越えた学びの循環が生まれている。



素材に触れながら遊び試す 5歳児



ストローを使いながら泡の広がりを試す子ども



泡が広がりテーブルから流れ落ちる様子に
美しさを見出す子ども



素材に触れながら感触を確かめる0歳児

IV 研修会 — 実技研修

実技研修では、保育者自身が素材に触れながら造形活動を体験し、子どもが感じ、気づき、試していく過程をあらためて見つめ直した。体験を通して、素材の可能性や保育での活用について考える機会とした。

1 実施の趣旨

- ・ 保育者が素材に直接触れる体験を通して造形活動の可能性を再認識するとともに、子どもの姿を改めて見つめ直すことを目的として実施した。
- ・ 造形活動は作品の完成ではなく、素材との出会い、試行錯誤、変化への気づきといった過程そのものに意味がある。本研修ではその過程を保育者自身が体験することを重視した。

2 研修内容

(1) 3・4・5歳児担当保育者対象

大きなクラフト紙と各種テープを用い、素材の特性を確かめながら構成遊びを体験した。大きな紙を自由に扱う体験は、「何に見えるだろう」「どうしようか」と自然に考え始める時間となり、素材と関わりながら試し、工夫する過程を実感する機会となった。

(2) 0・1・2歳児担当保育者対象

洗濯のりやでんぷんのり、花紙などを用いた感触遊びを体験した。紙が落ちずにとどまることを「くっついた」と感じる子どもの姿をイメージし、日常の保育の中にある小さな発見を見つめ直す機会となった。

3 研修を通して

素材を扱う体験を通して、保育者からは「子どもも同じように感じているのではないか」という声が多く寄せられた。

造形活動を「教える活動」としてではなく、子どもと共に感じ、考える時間として捉え直す契機となった。

また、研修内容が翌日の保育で実践されるなど、体験が速やかに現場へ広がる様子も見られた。



全身を使ってクラフト紙をくしゃくしゃにし
素材を感じる



素材を丸めたり広げたりしながら形の変化を試す
参加者



試したことや気づいたこと、どのように表現が
生まれたかなどを参加者同士で共有する



低年齢児の遊びを想定し素材の変化を確かめる

V 研修会 — 遊び・表現（・絵）を読む会

遊び・表現（・絵）を読む会では、各園の保育者が持ち寄った作品や活動写真をもとに、子どもの姿を読み取りながら発達理解や援助の在り方について対話を行った。年齢別の実践を共有し、保育の視点を広げる学びの場となった。

1 実施概要

0歳児から5歳児まで年齢別に実施し、各園の保育者が持ち寄った作品や活動写真をもとに子どもの姿を読み取り、発達理解や援助・環境設定の在り方について対話を行った。

本研修では、2歳児以上を対象とした「遊び・表現・絵を読む会」と、0・1歳児を対象とした「遊び・表現を読む会」を実施した。乳児期の保育では、日々の生活の中にある遊びや表現の姿を大切に捉えることから、0・1歳児では「遊び・表現を読む会」としている。なお、子どもの表現として絵があらわれた場合には、その作品も共有している。

2 研修の様子

- ・4～5名程度の少人数グループで対話を行い、その後全体で共有した。
- ・一人一人の感じ方や考え方を尊重し、まず受けとめるという前提のもとで対話が進められた。作品を時系列で並べて変化を捉えたり、子どものつづやきを共有したりすることで、表現の背

景にある発達や思いを読み取る時間となった。

年齢別の主な学び

- ・0・1歳：素材との出会いを楽しむ経験
- ・2歳：素材遊びから見立て表現への移行
- ・3歳：線描きや色の発達的特徴
- ・4歳：身体機能と造形活動
- ・5歳：作品の変化から成長を読み取る視点



子どもの描いた絵を手がかりに気づきや感じたことを出し合う



子どもの遊びや表現の写真をもとに語り合う



子どもの表現について保育者同士で意見を交わす



グループで語り合ったことを全体で共有する



グループで語り合ったことを全体で共有する



グループで語り合ったことを全体で共有する



子どもの遊びの写真を手がかりに気づきを共有する



子どもの遊びや表現の写真をもとに語り合う



グループで語り合ったことを全体で共有する



子どもの表現の意味を読み合う



子どもの描いた絵を囲んで語り合う



グループで語り合ったことを全体で共有する



グループで語り合ったことを全体で共有する



グループで語り合ったことを全体で共有する

VI まとめ

本事業では、0歳からの子どもの遊びや表現を出発点として、「公開保育」、「実技研修」、「遊び・表現（・絵）を読む会」を通じた学びを重ねてきた。

このような取り組みを重ねる中で、子どもの姿を手がかりに保育を捉えようとする視点が、少しずつ保育者の間に共有されてきている。

造形活動を通して見えてくる子どもの姿が
保育を捉え直す手がかりとなり
日々の実践を支える視点として

これからも保育に関わる人々の間で
共有されていくことを期待したい。